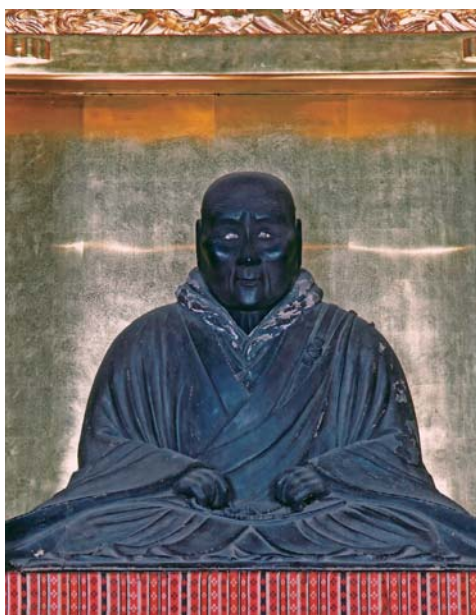




拝堂から親鸞聖人御廟を望む



等身の御影（栃木県指定重要文化財）

宝治二年十一月二十五日（聖人

法主 常磐井鸞猷
開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会がいよいよ目前に迫って参りました。早くから本山事務局をはじめ、宗門一体となって諸準備を進めて参りましたが、その日をお迎えすべきかと日毎に緊張の高まるのを覚えます。

等身の御影に
寄せて

さて、今回の御遠忌は、栃木の
本寺御影堂の御真影である「等身の御影」を正面にお迎えして執り行われます。これは大正十五年の立教開宗七百年記念法会にお迎えして以来、実に八十六年ぶりのことになります。

この御影は、聖人が関東から帰洛されて後、さまざまな邪義を言いつらして念佛を惑わす者が出て来たので、真佛上人は大変心を痛め、上洛して直々に聖人にお目にかかり、再度関東にお出向き下さるよう懇願した

七十六歳）、浄土和讃・高僧和讃と共に真佛上人にお与えになったのです。
それ以来、聖人のお身代わりとして関東一円の門弟たちの尊崇を一身に集め、聖人から直接お説法をお聞きする想いを持って拝聴聞して来た尊像であります。末法濁世の様相をいよいよ深めつつある現在、今こそ集中して一心に聖人のお声を聞き取らねばなりません。
また、この法会期間中、現在御影堂に安置する御影は宝物館に御動座安置されます。平常はお厨子の奥深く、お戸帳に隠れがちの御影を近々と拝観できる、これまた二度とない機縁を頂きますので、ぜひ宝物館へもお参り下さい。
法会中は三つのシンポジウムを始め、数々の行事がありますが、どうぞ一つでも多くご参加下さって、どしどし意見を述べ、質問をなさって下さい。各自が自発的に「聖人のもとに帰る」御遠忌にして下さるよう、切に願っております。



発行所

真宗高田派宗務院

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

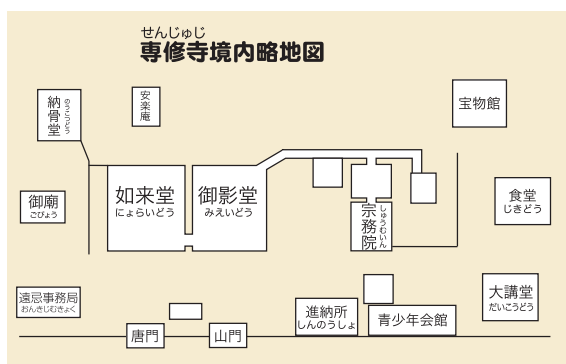
電 A	F X	振 替
00	00	
07	77	
15	55	
0.	.	
23	33	
05	77	
.1	11	
4.	.	
.9	66	
90	66	
33	55	
61	11	

御遠忌説教一覽

日(曜)	晨朝(午前七時)	日中(午前十二時)	建夜(初夜) (十三時三十分)	初夜(十六時三十分)	大講堂 (十二時三十分)
六日(金)	「転成」 鈴鹿市臨願寺住職 松山智道師	御親教 復演 哲元寺住職 鑑学 栗原廣海師	「弥陀の大慈悲」 鈴鹿市西方寺住職 三栗家篤証師	「浄土真宗に帰すれども」 愛知県豊橋市正太寺住職 大河戸悟道師	
七日(土)	「本願力ニアイヌレバ」 鈴鹿市法林寺住職 里榮秀教師	「願いに生きる」 長崎県島原市専光寺住職 蒲池龍眼師	「命との出遇い」 多気郡明和町迎接寺住職 花山光瑞師	「身に満つるもの」 津市西林寺住職 小堀高生師	
八日(日)	「金子みすゞの「報恩講」」 津市真楽寺衆徒 鷺山了悟師	「冥土と浄土」 横浜市成就院衆徒 浦上勇哲師	「聖人のみもとにぞう」 四日市市光輪寺住職 中村宜成師	「無縁社会の救いー現代と親鸞」 松阪市明照寺住職 藤澤真純師	
九日(月)	「弥陀の本願」 鈴鹿市欣念寺住職 田中明誠師	御親教 復演 彰見寺住職 鑑学 小妻道生師	「お念仏と私」 和歌山市崇賢寺住職 松田信慶師	「節談説教 弥陀の本国四十八願」 津市大門寺住職 井東信道師	
十日(火)	「念仏申さんと思いたつ心」 鈴鹿市了性寺住職 藤井徳雄師	「ご本願にあう」 鈴鹿市青蓮寺住職 廣田隆學師	「群萌の救い」 福井県大野市専福寺住職 金森顕宏師	「悲歎のころー垂離存在の自覚」 桑名市香林寺住職 林 浄光師	
十一日(水)	「学仏大悲心」 津市延命寺衆徒 藤田正知師	「救われ難きこの私であらばこそ念仏を」 福井県坂井市常楽寺住職 伊藤泰臣師	「よきひととの出遇い」 愛知県田原市西光寺前住職 都築堯寛師		
十二日(木)	「諸佛に囲まれて」 津市報恩寺住職 芳川賢史師	「弥陀ノ悲願ノフネノミヅ」 愛知県岡崎市浄泉寺住職 戸田恵信師	「お念仏に遇えたよろこび」 鈴鹿市真念寺住職 真昌智海師		
十三日(金)	「煩惱具足と信知して」 四日市市浄福寺衆徒 隆 妙灑師	「回心の告白」 津市慈光寺住職 藤山眞哉師	「現生不退のおさとし」 大阪市聖賢寺住職 島 義厚師		
十四日(土)	「真宗と仏教福祉」 津市普休寺住職 千草篤昭師	「和のころ」 鈴鹿市壽福院住職 眞岡慶光師	「唯聞弥陀本願海」 愛知県岡崎市浄泉寺前住職 戸田信行師		
十五日(日)	「親鸞聖人の願い」 津市最勝寺住職 長谷部行雄師	御親教 復演 隨願寺前住職 鑑学 松山智光師	「外儀のすがた」 津市長徳寺住職 高林亮英師		
十六日(月)					

◎御影堂での勤行の後、お説教がございます。
ご聴聞ください。

◎7日から14日は建夜に初夜が摂取されます。



世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭 安川如風
御本山絵所
おほんざんえどころ
えんがうしゅう

開山聖人七百五十回 遠忌報恩大法会ご案内

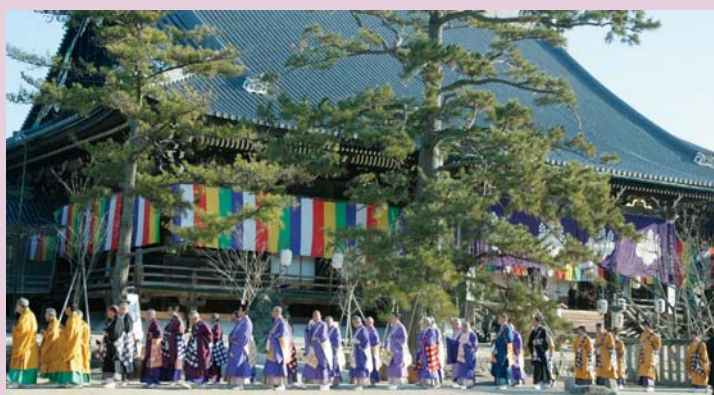
高田本山の開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会は、4月6日（金）から4月16日（月）までの11日間厳修いたします。50年に1度、御遠忌としての特別な大法会をお迎えいたします。「聖人のみもとに帰ろう」とのスローガンを掲げ、共に念仏に励む者を御同朋・御同行として僧侶だけに限らない救いの道を示して下さった聖人への御恩報謝の念を今あらためて相続していくことを願うものであります。

御遠忌期間中は記念講演・イベント等の行事も執り行います。この法縁に皆様がそろってご参詣いただきますようにご案内申し上げます。

法座時間

- 晨 朝（7:00～） 7日～16日
- 日 中（11:00～） 7日～16日
- 逮 夜（13:30～） 6日～15日
- ※7日～14日は逮夜に初夜が摂取されます。
- 初 夜（16:30～） 6日、15日のみ
- 後 夜（23:00～） 15日
- 御参廟（9:00～） 16日

・勤行後、御影堂にてお説教がございます。



御参廟の行列

帰敬式のご案内

日中・逮夜（初夜）の勤行後、如来堂にて帰敬式が行われます。

「帰敬式（ききょうしき）」は「おかみそり」ともいい、仏法僧の三宝に帰依する仏弟子となることを誓う儀式です。「帰敬式」を受け仏弟子となった後に名のる名前が「法名（ほうみょう）」であり、本来は生きているうちにこそ受けるべきものなのです。

真宗の「帰敬式」では実際に髪の毛を剃ることはなく、カミソリを当てるだけです。



帰敬式の様子

《申込み・お問い合わせ先》高田本山 進納所 電話：059(236)5701 FAX：059(236)5702

献灯に参加しませんか

15日(日)午後7時から午後10時30分までの間点灯 境内

4月15日初夜のお勤めと後夜のお勤めの間、暗くなった境内に1,500本のろうそくの温かな灯が点されます。ろうそくのカップに好きな言葉や絵などを書いていただけます。

受付 15日 午前9時～午後3時 献灯テント（協力金500円）

協力金の一部を「東日本大震災義援金」として被災地の支援に寄付させていただきます。



イベント

- 7日 10:15～ 龍鳴会雅楽
- 8日 9:30～ 能楽 片山九郎右衛門 (御対面所)
- 15:00～ 朗読劇
「よき人、親鸞 恵信尼ものがたり」
青年会主催
- 9日 10:30～ 風船上げ 幼稚園児・保育園児による
- 15日 19:00～ 境内ろうそく献灯
- 20:00～ 龍鳴会雅楽



雅楽



風船上げ

その他行事

- 供茶式 宗旦古流 7日 9:00～
- 庭儀式 (稚児練り) 14日・15日 10:00～

- 真宗各派御門主 御直香 11日 日中
- 真宗各派宗務総長 御焼香 12日 日中
- 東本願寺派及び他宗派 御焼香 14日 日中

- 宗旦古流 呈茶
- 安楽庵 7日・8日、14日・15日
- 境内テント 9日～13日

- 宝物展 6日～16日 宝物館
- 生花展 未生流 6日～16日 宗務院第一会議室
- 高田本山を描く展 6日～16日 宗務院第二会議室
- 本山絵所安川如風展 6日～16日 宗務院第三会議室
- 高田派寺院写真展 6日～16日 高田会館ホール
- 生花いけのぼう展 6日～16日 休憩所



安楽庵 呈茶

● 特別講演

- 6日 高田派鑑学 小妻道生師
- 7日 本願寺派勧学 内藤知康先生
- 9日 大阪大学大学院准教授 稲場圭信先生
- 10日 評論家 芹沢俊介先生

● 教学院布教大会

- 11日 第三部会主催

● 念仏者の集い

- 12日 本願寺派勧学 浅田恵真先生

● シンポジウム (高田会館ホール)

- 13日 コーディネーター
高田短期大学学長 栗原廣海先生

● 仏教福祉シンポジウム (高田会館ホール)

- 14日 コーディネーター
高田短期大学人間介護福祉学科教授
千草篤磨先生

● 節談説教

- 15日 真宗大谷派満覚寺住職
廣陵兼純先生

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田 潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

ご法事のご会食 ご予約承り中
～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～

お膳め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。
◇精進料理 1人前 4,000円(税サ別添) ◇本山会席 1人前 3,500円より(税サ別添)

人気商品 高田本山流 精進料理

お問い合せ・ご注文は 専らご自宅までマイクログ(スでござ品(5名より14名様まで))

高田青少年会館 TEL.059-232-6079



修理を終えた御対面所

いよいよ御遠忌が近づいてまいりました。御対面所と大玄関の大規模な修復もほぼ完了し、同時に御影堂と賜春館などを繋ぐ回廊や御庭の植栽も整えられました。賜春館屋内も随分と明るくなつて、南側の濡れ縁からは、回廊越しに新しくなった御対面所の屋根を望むことが出来るようになりました。

御対面所が天明三年（一七八三年）の本山境内大火により、両御堂と御宝蔵以外の殿舎と共に焼失したことは、火災後に寺内町に常備された「拾人火消」という消防組織の創設と共にお伝えしましたので御承知のことと思います。その後、焼け跡に真っ先に再建された御対面所の記録としては、天明六年（一七八六年）の『御堂日録』閏十月二日に、御対面所の完成を伝えるだけでしたが、今回の修復により屋根裏から棟札が見つかりましたので御紹介します。

「伊藤平左衛門義房」の左に「伊藤総右衛門義利」とある人物は、通天橋の棟札に「伊藤平左衛門吉俊」と記されている人物と同一人であろうと考えられます。御対面所の棟札に「伊藤平左衛門義房」と記されている棟梁は、おそらく「吉俊」の先代棟梁と思われる、名棟梁として知られた「伊藤平左衛門吉俊」が家業を継ぐ以前は、「伊藤総右衛門義利」と名乗っていたことが判明する史料です。

また、この棟札の裏面には、御対面所再建に盡力した家老・役僧・下役などの名も記されていて、この後、長く続くであろう境内復興への願いを込めた棟札であることも感じさせます。

御対面所は本来、住職拝命や得度式の際に、法主殿が御対顔されるための正式な場所です。今までは賜春館に於いて執り行われていましたが、今回の修復を機に、長く閉じられていた御出ましの扉を再び開いて御対顔していただくことになるようです。

（宝物館主幹 新 光晴）

「御対面所」の

天明五年再建棟札



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

緑 と 共 に 75 年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77
TEL 232-7453
FAX 232-7453

高田派のはじまり

教学院第三部会

御開山親鸞聖人はおよそ二十年間にわたって関東地方で教化活動なされました。聖人の教えを受け帰依した門徒は十万人にも

面授の直弟は四十八名になります。

のぼつたと言われています。あちこちに門徒集団ができていて、常陸の鹿島門徒・下総の横曾根門徒・下野の高田門徒のようにそれぞれの地名によって呼び分けられていました。門徒についての詳細は詳しく今に伝わっていませんが、その中の指導者層とみられる人々の名を系統的に書き上げたものが伝えられています。それが「親鸞聖人門侶交名牒」(岡崎市妙源寺蔵)で、鎌倉時代末期に成立したものと考えられています。成立当初それに記載されたと認められる総人員は約二百六十名で、そのうち聖人

「親鸞聖人門侶交名牒」の筆頭に記されているのが、高田派第二世真仏上人であります。真仏上人門下となる門弟は延べ九十五名を数え、関東教団における上人の占める位置の大きさが窺えます。また埼玉県蓮田に「延慶四(三三二)辛亥三月八日」の年紀と「報恩真仏法師」と明記した六字名号の板碑が立っています。その大きさは地上露出部だけで約四メートルであり、全国第二の巨大さであります。このことを見ても、上人は親鸞聖人に次ぐ初期真宗教団最大のリーダーであったと言えるでしょう。ただ上人は正嘉二年(二五八)、親鸞聖人に先立つこと四年、五〇歳



真仏報恩塔(埼玉県蓮田所在)

で遷化されました。

真仏上人の跡を継がれたのが第三世顕智上人で、真仏上人と同じように高田門徒という関東最大の教団リーダーであることにより、真仏上人の行状とよく注目されるのは、念仏聖としての活躍であります。『三河念仏相承日記』には、上人を「顕智ヒジリ」と記しています。そして建長八年(二五六)に先輩の真仏上人等と一緒に京都に赴き、師親鸞聖人を訪問した帰路、三河国に足掛け三年間滞在し、「念仏ヲ勸進」して多くの人々を入信させ、道場を建立し、自ら先達となつて人々を関東の高田へ参詣させたことが述べられています。

高田派には、他派には見られない聖人直筆の『三帖和讃』・『西方指南抄』の国宝をはじめ、真仏上人や顕智上人が聖人の書物を書き写された数多くの書写本が残されています。また、重要文化財、美術品、聖人が関東門徒に宛てられたお手紙等、数えきれない宝物が受け継がれています。これ正しく法脈の高田、教学の高田と呼ばれる所以でありましょう。

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇

高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595



ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店

御影石材(株)

〈石に御用の方は〉

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式會社

ISHISEN STONES

ストーンズ 石仙

(旧(有)山本石材店)

☎0120-67-4114

四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

宗旦古流呈茶

平成二十四年 四月
そうつたん こりゆうてい ちや

七日(土)、八日(日)、十四日(土)、十五日(日)
本山内 安楽庵 午前10時～午後3時(七日は十二時)
九日(月)～十三日(金)
境内テント 午前10時～午後3時
◎呈茶券は(五百円)を日二 百枚限定は当日販売のみとなります。
◎宗務院 進納所、御遠忌事務局でお求め下さい。

寺院名

高田本山の 宝物と文化財展

パラミタミュージアム開館10周年記念特別企画
真宗高田派本山専修寺
開山聖人七五〇回遠忌報恩大法会記念

証
その
信仰

2012年 3月4日[日]—4月16日[月]
期間中展示作品の一部入替えがあります

第1期 3月4日[日]—3月19日[月]
第2期 3月20日[火・祝]—4月2日[月]
第3期 4月3日[火]—4月16日[月]

講演会 3回シリーズ 赤川一博(当館学芸企画部長)

3月11日(日)「親鸞聖人の時代と美術」
3月25日(日)「貫慧上人の時代と美術」
4月1日(日)「高田派寺院の宝物～伊勢国を中心に～」
いずれも午後2時～午後3時30分

ギャラリーツアー 第2、4土曜日 午後1時から午後1時45分

【開館時間】 午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
【入館料】 一般1,000円(4枚セット券3,000円)/大学生800円
高校生500円/中学生以下無料

【主催】 公益財団法人岡田文化財団/パラミタミュージアム
【後援】 三重テレビ放送、中日新聞社、NHK津放送局、朝日新聞社、
毎日新聞社、読売新聞社、伊勢新聞社、日本経済新聞社、
シー・ティー・ワイ、ケーブルネット鈴鹿
【協力】 三重テレビエンタープライズ
【特別協力】 宗教法人 真宗高田派本山専修寺

公益財団法人岡田文化財団 パラミタミュージアム paramitamuseum

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町 21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 http://www.paramitamuseum.com E-mail:office@paramitamuseum.com



鎌倉机(専修寺)



露地上人所用茶器(専修寺)